

H23 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲結果

幌別 - 岩尾別地区において、1) 幌別地区の小型囲いわな、2) 幌別地区のくくりわな、3) 岩尾別地区の流し猟式シャープシューティング (以下、SS) の手法によるシカ捕獲を 2012 年 1～4 月にそれぞれ実施した (表 1-4-1)。

<実施結果>

3 手法のシカ捕獲合計頭数は、452 頭 (うちメス成獣 247 頭) であった (表 1-4-2)。捕獲個体はすべて有効処理施設へ搬出した。

1) 幌別地区の小型囲いわな

1 月 21 日～3 月 23 日の 63 日間に自動落下式ゲートを用いて、85 頭 (うちメス成獣 36 頭) のシカを捕獲した。

2) 幌別地区のくくりわな

1 月 7 日～3 月 1 日の 55 日間に、58 頭 (うちメス成獣 35 頭) のシカを捕獲した。わなの日平均設置数は 19.1 基であった。

3) 岩尾別地区の流し猟式 SS

12 月 30 日～4 月 15 日の 108 日間に流し猟式 SS を計 14 回実施し、309 頭 (うちメス成獣 176 頭) を捕獲した。なお 1 月 28 日～3 月 18 日の 51 日間は冬期観光利用のため実施しなかった。

表 1-4-1. H23 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別捕獲実施状況

		1月	2月	3月	4月
幌 別 - 岩 尾 別	小型囲いわな 幌別	1/21		稼働期間	3/23
	くくりわな 幌別	1/7	稼働期間 クマ冬眠期に限り稼働		3/1
	流し猟式SS 岩尾別	1月4回	冬期観光利用のため中断		3月5回 4月5回

表 1-4-2. H23 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別シカ捕獲状況

	メス成	オス成	0才	合計
小型囲いわな	36	32	17	85
くくりわな	35	12	11	58
流し猟式SS	176	107	26	309
合計	247	151	54	452

<捕獲効率>

- ・ 3手法による総人工数は85.6人日であり、1人日あたりの捕獲頭数は5.3頭/人日であった(表1-4-3)。
- ・ 人日あたりの捕獲頭数は、流し猟式SSが最も多く(8.1頭/人日)、くくりわなが最も少なかった(1.8頭/人日)。

表1-4-3. H23シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における捕獲効率(人日あたりの捕獲頭数)

捕獲手法	作業内容	作業回数	のべ作業人数 (人)	のべ作業時間 (h)	1回あたりの 作業人数 (最少~最大)	人工数a (人日)	捕獲数b	頭/人日 b/a
小型囲いワナ	①誘引	18	29	22.9	1~5人	6.23	85	5.4
	②ゲート点検改良	5	9	6.0	1~3人	1.68		
	③仕分け・搬出	32	90	14.7	1~5人	5.67		
	④除雪・修繕	5	9	10.6	1~2人	2.03		
	小計	60	137	54.2	—	15.61		
くくりワナ	①設置・回収	10	38	16.5	2~5人	8.00	58	1.8
	②見回り・搬出	53	122	86.5	2~3人	23.94		
	小計	63	160	103.0	—	31.94		
流し猟式SS	①餌付け誘引	36	79	42.7	1~3人	12.07	309	8.1
	②捕獲	14	74	97.4	5~7人	26.02		
	小計	50	153	140.1	—	38.09		
	計	173	450	297.3	—	85.6	452	5.3

※1: 人工数は、1回の作業ごとに計算したものを合計している。1回の作業の人工数=(人数×時間)÷8時間。

※2: 捕獲個体の搬出運搬はシャープシューティングでは有効活用事業者が対応のため、含まず。くくりワナでは拠点(鳥獣保護区管理事務所)まで搬出、囲いワナでは移動用暗箱追い込みまでとし、その後は有効活用事業者引き渡し。

<各手法の長短>

1) 小型囲いわな

- ・ 食肉利用に適した生体捕獲が可能である。
- ・ 自動落下式ゲートは夜間の自動捕獲に有効だが、日常的メンテナンスが必須。
- ・ 餌付けによる誘引作業にかかる労力が大きい。
- ・ 除雪等のメンテナンスが必要。
- ・ 暗箱へのシカ仕分け、搬出作業に少なくとも3~4名による作業が必要。
- ・ 捕獲や搬出、メンテナンスを考慮すると設置できる場所がかなり限定的。
- ・ 大型囲いわなと比較すると、除雪等メンテナンスや追い込みにかかる労力が少ない。
- ・ 大型囲いわなと異なり、一度に多数を捕獲する手法よりも、一度に3~4頭の捕獲を繰り返す手法に適している。

2) くくりわな

- ・ 設置や移動が容易で、シカの利用場所に合わせたピンポイントでの設置が可能。
- ・ すべての作業(設置・見回り・止めさし・搬出)において短時間、少人数(半日2名程度)で実施可能。
- ・ 毎日見回りを必要とするため作業労力の割に捕獲効率は高くない。

3) 流し猟式SS

- ・ 他の2手法よりも捕獲効率が高い。

- ・ 他の2手法よりも法令や安全面等に係る諸条件が多い。
- ・ 餌付けによる誘引作業の労力が大きい。
- ・ 冬期閉鎖中の道路で実施する場合、道路の除雪が必要。